

《WE 認証者インタビュー》

日本の技術者の地位が上がった

—— 溶接管理技術者資格の国際化に「感謝」 ——

小坂工務店は青森県三沢市で総合建設業を営む。小坂仁志社長（54）は、建設業の一部門として過去に鉄骨製作工場を展開していたころ、大臣認定工場を視野に日本溶接協会の溶接管理技術者（WE）1級を取得した。その後、日本溶接協会が資格の国際化を進めるなかで、国際資格を目指して2000年に特別級、2002年には国際溶接学会（IIW）の国際溶接エンジニア（IWE）を相次いで取得した。小坂社長は三沢基地の米軍関連工事の受注に際して、IWE資格がプラスに作用した事例を挙げ「日本溶接協会がWEの国際化への道を拓いてくれたおかげで、日本の技術者の地位が上がった。非常に感謝している」と話す。

株式会社小坂工務店
代表取締役社長

小坂 仁志 氏



●2000年WE特別級、02年IWE取得

同社は宮大工であった先代の現会長、小坂良治氏が1958年に創業。米軍との共同使用基地である航空自衛隊三沢基地を取り巻く情勢と歩調を合わせるように総合建設業へと業態転換を図り、創業50年を迎えた2008年、小坂仁志氏が社長に就任した。

現在売上げの8割は建設業が占め、そのうち9割は建築、1割は土木で構成する。建設のほかに通信（携帯電話の端末販売事業）、不動産仲介業などを展開する。「通信はもともと鉄塔工事を受注するために始めた経緯があり、すべて建設に関係した事業を展開している」（小坂社長）

鉄骨製作に関して、同社はかつてRグレードを取得し、ピークには年間約1,800トンを加工していたが、約10年前に撤退した。

「鉄骨を担当することになり、グレードを取る過程で必須の資格があった。当時はWE1級や鉄骨製作管理技術者1級に加え、UT2種（現レベル2）まで取得した」

小坂社長はこれらの資格に先立ち 1989 年、一級建築士試験に合格している。WE1 級の受験にあたっては、一級建築士受験の経験を生かした。

「建築士のときは試験までに合計 200 時間、1 週間あたり 8 時間の勉強を自らに課した。WE1 級は過去一番難しい試験であった。断りきれない取引先との付き合いや残業などで 1 週間丸々勉強に時間を割くことは困難であったが、建築士試験と同じ時間配分で書いて覚えることに専念した結果、幸い最初の試験で合格することができた」

WE1 級から特別級へのランクアップは、国際資格を取得するための過程だったと振り返る。

「IWE 資格は米国人に通用した。実際、IWE 資格を示すことで、ある米国人はそれまでの態度を一変させ、敬意を払われたこともある。技術資格の国際化の流れのなかで取得したわけだが、非常に効果があった。日本と米国では設計思想が異なるが、IWE 資格によって理解を得るケースもあった。三沢という小さい町で米国の鋼構造工事を手がけるうえで非常に助けられた」

同社の 2015 年 12 月期決算は、「売上高 33 億 8 千万円で 1996 年 12 月期のピークを超え、当社にとっては失われた 20 年がようやく消えた」。また、2030 年代、現在と比較して人口が増える東北の市町村は、仙台市と、残る一つは同社が基盤とする三沢市との予測もある。ただ、小坂社長は進展する少子高齢化の先を見据え「人を育てなければならない」と指摘する。持論は「人は先生になるために生まれてくる」である。

「社員には『とにかく 20 代は稼げ、30 代は資格を取れ』と繰り返す。40 代は知識、コミュニケーション能力、体力の掛け算がピークを迎える。50 代になると知識は古くなり、体力もなくなる。特に技術者は、いつまでも自分という考えではなく、後進を育てることが肝要だ」

同社の特徴の一つに挙げられる女性社員が全体の 4 割を超えることについて、小坂社長は「意図的」と話す。

「概ね男女半々を目指している。今後就労人口が減少していくなかで、意識して女性に長く勤めてもらうために取り組んでいる。同時に、65 歳以上が働けるように思案している。女性と 65 歳以上が働かないことにはいずれ働く人がいなくなるという意識で、男性の介護離職なども踏まえた対策を積極的に講じていく」

同社は「感謝の心」を企業理念に掲げる。「面接などに際しては必ず、会長が掲げる『感謝の心』を引用して『当社は感謝をつくる会社』であると説明する。建設や通信は感謝をつくるための手段に過ぎない。顧客から『ありがとう』と言ってもらうために仕事をする。仕事をもらいお金もらい、もらってばかりの発想は戒め、『ありがとう』と言ってもらうことが当社の仕事への対価である」とらえている」

WE、そして IWE と取得を重ね、その効果に「感謝」を示した小坂社長は、次代を担う技術者に「WE は世界に冠たる自慢できる資格。国内だけでは気づかないかもしれないが、WE 認証者は自信を持って溶接技術に携わっていただきたい。歴史を学ぶほど日本の技術力の高さを再認識する。WE 認証者は日本の技術力の一翼を担っている。東日本大震災が発生しても鉄骨のビルは倒れなかった。正に誇りを持っていい資格である」とエールを送る。